

## どうしようもないなんてない

先週は待ちに待ったイースターでした。教会員皆で、今からおよそ 2000 年前に起こったイエス様復活の出来事をお祝いしました。イースター後の今は教会の暦で復活節というシーズンを過ごしています。このシーズンはイエス様の御復活、そこに現わされた神様の恵みに私たちがしっかりと応えて生きていくことがテーマになります。そのために、今日もイエス様の御復活とはどのような恵みの出来事だったのかをしっかりと確認しておきたいと願います。今日、改めてイエス様の御復活において現わされた神様の恵みを皆でしっかりと心に刻みましょう。そして、これからの日々を有意義に過ごしていきたいと願います。

さて、今日取り上げさせていただきました聖書箇所は、ヨハネによる福音書 20 : 11～18 です。イエス様復活の出来事、それは空のお墓の出来事から始まりました。女性たちがイエス様のお墓に行くと、イエス様のご遺体を納めたはずのお墓が空っぽだったんですね。今日の聖書箇所の直前の箇所、ヨハネによる福音書 20 : 1～10 でも、マグダラのマリアがイエス様のお墓に行くとお墓が空っぽで、ペトロさんともう一人のお弟子さんを呼びに行ったことが記されています。二人のお弟子さんはお墓が空っぽなのを目撃して、家に帰りました。一人残されるマグダラのマリア。どうなったかな？ 今日のお話を皆で見えていきましょう。

お墓が空っぽ。イエス様のご遺体がない。マリアは悲しんで泣きました。泣きながらお墓の中を見ると、天使が二人現れました。天使たちは言います。「どうして泣いているの」と。これに対してマリアは、「イエス様のご遺体がどこかに行っちゃったんです。どこに置かれているのか、分かりません」と、その戸惑いを口にしました。でも、そう言いながら後ろを振り向くと、イエス様が立っておられたのです。でも、マリアはそれがイエス様だとは気づきませんでした。マリアは死の中にイエス様を捜していたんですね。まさかイエス様が蘇られて生きておられるとは思いませんでした。そんなマリアに、イエス様は言います。「マリア、どうして泣いているの？ 誰を捜している

の？」と。その問いかけは、「なぜ生きている人を死者の中に捜すのか」という問いでもありました。

それでもイエス様を死の中に捜し求めるのを止めないマリアに、イエス様は御自身の方から「マリア」と声をかけられます。その時にマリアは後ろに立っていた人がイエス様だと気づいて、復活のイエス様に出会うことができたのでした。もうマリアは死者の中や自分の思い出の中にイエス様を捜すことはしません。死の力に絶望し、思い出だけを抱えてイエス様のお墓を守っていくことに自分の人生の意味を見出さなくなりました。そして、復活の主、生きておられるイエス様に自分たちの生きる道を見出したのです。自分自身の人生を、死につつある命の中にはなく、永遠の命を示されたイエス様の中に見出していきました。それはあらゆることに対して仕方がない、私たちにはどうすることもできない力があると諦めるのではない人生に導かれるということでもあります。

私たちもまたマリアのようでありたいと願います。今からおよそ 2000 年前にイエス様は蘇られ、私たちの死を滅ぼしてくださいました。そのイエス様の中に自分の人生を見出していきたいと願います。

歴史にもしもはないのですが、もしもイエス様が復活されなかったならば、私たちの人生は本当に虚しいものだったでしょう。どれだけこの世で愛し合って幸せになっても、最後には死が待っている。死んでおしまい。それをどうすることもできない。それだったら、私たちは希望を持って前向きに人生を歩んでいくことはできません。でもイエス様は確かに蘇られて私たちの死を滅ぼし、私たちに永遠の命を与えてくださったのです。

そんなことを言えば、いや私たちは皆死ぬじゃないかと仰る方もおられるかもしれませんが。ここにいる子どもたちの中にも、お葬式に出た経験がある人はいるでしょうか。そうした経験から分かる通り、確かに私たちは皆死にます。しかし、そこで終わ

りではありません。イエス様の甦りによって、その死が永遠の命の入口へと変えられました。私たちは皆、死んでも生きます。神様のもとで安らかに永遠の命に生き、そこで愛する人々と再会するのです。

私たちの行く末は死んでおしまいバッドエンドではなく、そうしたハッピーエンド、その希望の中で私たちは自分の人生を歩んでいきます。そしてそこから、私たちは神様のもと、どうしようもないことなんてないことを学んで生きていきます。

子どもたちも含めて私たちの人生には、辛いこと、悲しいこと、理不尽なこともたくさんあるかもしれません。その中で私たちは仕方がない、どうしようもないと諦めたくなることも出てくるかもしれない。そんな時に、イエス様が私たちの死をも滅ぼしてくださったことを思い出したいのです。そのイエス様がついていてくださること、支えてくださっていること、導いてくださることを思い出したいのです。

神様のもと、どうしようもないことなんてない。どんな時もイエス様に支えられて、諦めることなく、希望を持って歩んでいきましょう。また能登半島大地震、ロシアとウクライナの戦争、イスラエルとパレスチナの争いなどなど、テレビや新聞を見れば暗いニュースが連日のように報道されていますが、それでも諦めることなく、自分にできることをしていきたいと願います。この府中の地でイエス様を中心に愛し合い、支え合って、皆で一緒に人生を前向きに歩んで参りましょう。

お祈りをいたします。 ——以下、祈祷——